

(公社)日本給食サービス協会会長賞

『大好きな私の給食の時間』

愛知県犬山市立楽田小学校 五年四組 女子 白井 珠莉

四月に五年生に進級し、委員会活動が始まりました。私はどの委員になろうか迷いましたが、前から楽しそうだなと思っていた給食委員になりました。給食委員は人気があるので、無事なることができてうれしかったです。今は、給食委員になり四ヶ月がたち、最初はドキドキしていた仕事にも、もうだいぶなれてきました。

給食委員になって、心に残っている出来事があります。給食委員の仕事の一つである、給食後の残飯回収と給食室の黒板に翌日の献立や使用食材の栄養についての情報を書く仕事を担当した時のことです。その日当番だった私は、残飯を片付けに来る各クラスの給食当番の子達よりも早く給食を食べ、給食室に行かなければいけませんでした。給食を食べるのが遅い私には一苦労です。それでもなんとか急いで食べ、給食室に行きました。できれば残飯回収の仕事の前に、黒板書きの仕事を終わらせてしまいたかったのです。でもやっぱり黒板を書き終える前に、早いクラスの給食当番が残飯を持ってきてしまいました。そうなると、たとえ黒板書きが途中であっても、一度やめなければなりません。それに、一度一つのクラスがきはじめると、他のクラスも次々とやって来ます。結局全部終わるまで、手があく時間はありませんでした。やっと残飯回収が終わわり、急いで黒板書きの続きをし始めました。給食の後は掃除の時間になります。早く給食委員の仕事を終わらせなければ・・・とあせります。すると、他の給食委員の人たちが、自分の仕事は終わっているにもかかわらず、私の仕事を手伝ってくれました。しゃべったことのない六年生や先生までもいます。私はすごくうれしかったです。皆のおかげで、掃除の時間に合うことができました。

それからもう一つ、四月に一年生が入学してきた時にも心に残る出来事がありました。給食の時間が終わり、片づけにきた給食当番の子達は、一年生の見本になれるよう、みんな大きな声で「こちそうさまでした。」と声を出します。でも一年生の子達は、何も言わずに帰っていきます。私は少し悲しくなりました。でも皆あきらめずに、大きな声を出し続けました。すると日にちがたつにつれ、一年生も「こちそうさまでした。」と言える子が沢山ではじめました。注意すれば簡単だったのかもしれないけれど、行動で伝えることができ、とてもうれしい気持ちです。どんどん月日を重ねるごとに、小さな声ではなく皆が大きい声になっていければ良いなと思います。

まだまだ給食委員の仕事には、知らないことがあると思います。でも失敗をおそれず、残りの時期も楽しんで仕事をし、学校みんなが給食の時間を楽しくにしてくれるようにできれば良いなと思います。